

CONTENTS COMBAT

2014.Feb.
No.455

2

Cover Design
favorite graphics (tamao ito),
Cover Photo
SPLASH/アフロ
©WORLD PHOTO PRESS 2014



[第1特集/ミリタリー]

012 フランスで行なわれる、 世界最大級の軍・警察見本市 MILIPOL PARIS 2013

●レポート：清谷信一 (Shinichi Kiyotani)

028 空自 緊急発進!! JASDF SCRAMBLE!!

●取材：菊池雅之

085 Militaria Roundup! アメリカ陸軍 将校用野戦装備 Part.1

●解説：菊月俊之

130 月刊 自衛隊「ニッポンのちからこぶ」 88式地对艦誘導弾

●取材：菊池雅之

134 The Equipments of the U.S. Force [現用米軍装備カタログ] 第113回 アメリカ海兵隊特集Part.6 海兵隊FSBE2装備④

●解説：松原隆 (高知ボンバース) ●撮影：山崎 学

[第2特集/トイガン&サバゲ]

018 NewGenerationStyler UOC vol.2

●Fujiwara

036 東京マルイ 次世代電動ガン DEVGRU CUSTOM HK416D

●Photos & Text by Taku



042 WESTERN ARMS KIMBER ULTRA RAPTOR II

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

047 WESTERN ARMS SCREEN PROPERTY SERIES

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

053 TANAKA WORKS S&W M40 SENTENNIAL Part II

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

058 MARUZEN APS-3 LIMITED EDITION 2013

●Photos & Text by Taku

074 第2次世界大戦のミリコスでサバイバルゲームを楽しもう! WWII ヒストリカル・サバイバルゲーム

004 COMBAT FRONT LINE

064 Goods & Accessory

080 兵装嗜癖
HEISO SHIHEKI

●by Fujiwara

082 トイガンニュース

082 WA セリエント・アームズ1911《コマンダー・レンガス》

083 WA コルト1911《ジョン・デリンジャー》

083 WA ベレッタM92FS《まどか☆マジカ》モデル

084 サープラスいじり技術研究所

●写真・文：織本知之

096 PRESENT

184 中田商店グッズ

186 S&Grafグッズ

097 GAME OVER THE TOP

100 物欲ワンホール

ROUND 28:未知の憧れ、気ままに冒険の旅

レア・ミリタリー・テクノロジー

ミリタリー雑学講座

112 A STITCH IN TIME

113 GEAR CUSTOM WORKSHOP

PROJECT NINJA ●Tokyo Equipment Stupid

116 アメリカGUN事情 Guns Talk from US

118 蛙のゆびさき(中山 蛙)

122 帰ってきた 狩野健一郎の

[監督、そこにおっぱいは必要ですか!?!]

124 トイガンズジャンクション

161 バックナンバリスト

162 読んで覚える TakuのHOW TO Shooting 射撃のススメ

164 2013 ショットショージャパン(冬の部)

165 第71回 ザ・ビクトリーショー

166 Military Collection

168 ビバ・ナイフ!

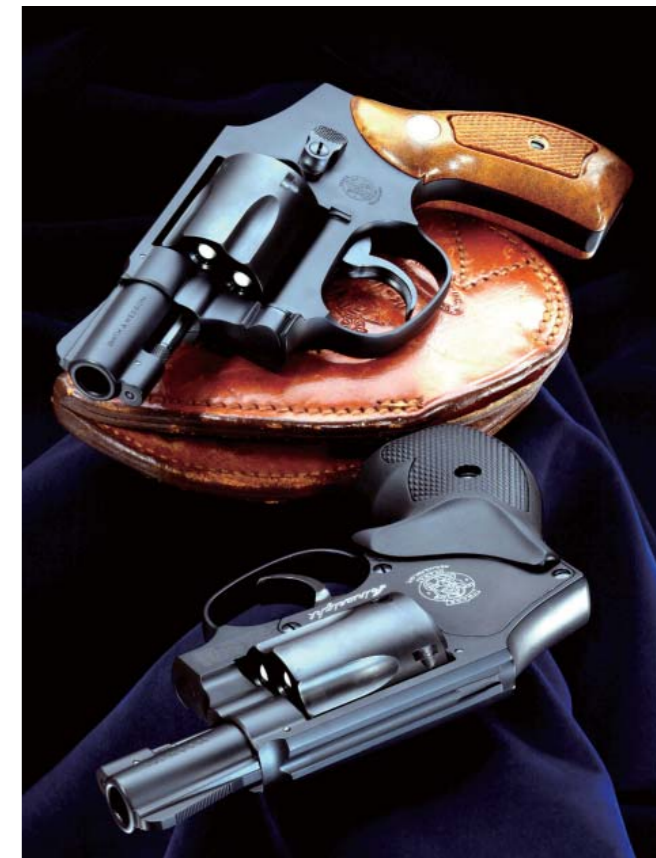
170 狩野健一郎のシネマ放浪記

171 狩野健一郎の新作DVD紹介

172 コンバットマガジン・インフォメーション・センター

175 読者プレゼント応募方法

176 編集後記



フランスで行なわれる、世界最大級の軍・警察見本市

MILIPOL



PARIS 2013

●レポート：清谷信一
(Shinichi Kiyotani)



FN社のMINIMIの最新型“5.56mm MINIMI Mk3タクティカルSB”。全長863mm、バレル長349mm、重量8kg。SBのストックは5段階での伸縮が可能で、バックパッドの高さも調節できる。発射速度は800発/分で有効射程は800m。Mk3には写真のSBの他、固定銃床のスタンダード、タクティカルの派生型が存在する。



①バレル上部にはヒートシールドが設けられ、コッキングハンドルも改良されている。給弾は左右から可能で、200発用のポーチまたは箱型ケースに収容される。30連の小銃用マガジンも使用可能だ。なおフィードトレイには歯止めが設けられ、片手でも容易にヘルトリックを装着できる。②従来型と異なるパーツが黒色となっている。ハンドガードも変更が加えられ、左右、下部にレールマウントが装備されている。下部のレールマウントには起倒式のグリップが装備されている。バイポッドは取り外しができ、高さは3段階に調整が可能。既存のMINIMIをMk3にアップグレードするためのキットも発表されている。ちなみに陸自のMINIMIは筆者の知る限りオリジナルよりも総弾不良数が多いと現場では不満が多いようだ。



H&Kの最新型7.62mm機銃“HK121”。バレル長の異なるIとUの2タイプ、さらに車載型のS型、同軸機銃用のEBWが存在する。写真はいちばんバレルが短い型で、全長1,060mm、バレル長460mm、重量9.9kgだ。発射速度は600~800発/分、有効射程は600m（バイポッド使用時）となっている。またMG3のバイポッドや三脚はそのまま使用できる。



③H&K社のMP7A1のトレーニング型と新型のホルスター。④ホルスターは銃本体を金具で固定するタイプで、腰にも装着できる。



イスラエルのラファール社が開発したノンリーサル（非致命）のRWS“サムソンNR”。ライアット・コントロール用のRWSで、向かって左が指向性スピーカー兼音響兵器、中央が催涙ガスランチャー、左がストロボモードを有するサーチライト（メガレイ2175）、ゴム弾用のグレネードランチャーなどから構成されている。



パナソニックのタフブックのライバル“デュラブック”が登場。1984年に創業した台湾のツイン・ヘッド・コーポレーション社のブランド。デザインやコンセプトはかなり似ている。



2013年11月12日から15日の4日間にわたり、パリで世界最大級の軍・警察見本市「ミリポール・パリ」が開催された。これまではパリ市内のポート・デ・ベルサイユの見本市会場で行われてきたが、規模の拡大もあり、今回はユーロサトリアや欧州最大のオタクイベント、ジャパンエキスポと同じ、

シャルル・ド・ゴール国際空港近くのビルバンド見本市会場に開催場所を移した。今回もっとも目立ったのは日本企業の出展の多さだ。帝人やパナソニック、ヤマハなどの常連に加えて、YKKやケンコー・トキナーなどの初出展メーカーが増えていた。またパナソニックは

いままで監視用ビデオシステムやタフブックなどを展示していたが、今回は歩兵装備にも使用可能な携行型カメラ、他社のシステムの一部として提案するなど踏み込んだ製品紹介を行っていた。またヤマハも中国への輸出スキャンダルが起きたヘリ型UAV“RMAX”を久々に見本市に展示。非自律型は農業

空白緊急発進!!

JASDF SC RAMBLE!!

中国が日本と重複する防空識別圏を発表。これに日本政府は驚愕した。
「これは日中戦闘機による衝突もあるのでは……」と不安に思った国民も多いはずだ。
加えて、防衛省統合幕僚監部はスクランブルが増加傾向にあるというデータを公表。
このデータを詳解するとともに、日本の空の危機に迫る。

写真・取材 / 菊池雅之 データ提供 / 統合幕僚監部



11月6日に小松基地で公開されたスクランブル訓練の様子。スクランブルがかかると、パイロットや整備員がそれぞれ自分の機体へと走っていく。そして5～10分程度で滑走路へ。このスピードが重要なのだ。



東京マルイ Photos&Text by Taku
東京マルイ ☎03-3605-3312 http://www.tokyo-marui.co.jp/
●撮影協力：S & Graf (通販部☎072-875-7741、HP：http://www.sandgraf.jp/)

次世代電動ガン DEVGRU CUSTOM HK416D

米海軍特殊部隊であるDEVGRUが採用するカスタムアサルトライフルが登場!!

東京マルイの次世代電動ガンHK416Dの最新バリエーションモデルとなる「DEVGRU CUSTOM HK416D」が発売された。

アメリカ海軍特殊部隊SEALSチーム6として発足した対テロ部隊が「DEVGRU(デヴグル)」である。DEVGRUというのはDevelopment Groupの略で、正式には「United States Navy Seals Special Warfare Development Group」となる。発足当初よりさまざまな作戦に従事しているが、その名を一躍有名にしたのは、何といっても「Operation Neptune Spear」での活躍だろう。この作戦によりDEVGRUはもっとも有名な特殊部隊としてその名を轟かせた。

DEVGRUのような特殊部隊では、使用する火器に関しても一般部隊の制式採用品ではなく、部隊が独自に選定したモノを採用している。これは何も米軍で制式採用された火器がダメというわけではない。厳しいトライアルを

勝ち抜いていることを考えても、その実力は確かなもの。しかし、ほとんどの特殊部隊は部隊独自に選んだ火器を使用している。それはなぜか？ 要するに使い方の違いだ。

一般部隊の隊員が使用する制式採用火器が大眾車だとすると、特殊部隊が使用する火器は競技車のようなモノ。まったく想定する使用用途が違うのだから、選定方法が独自なのもうなずける。

より過酷な状況下で任務に従事する特殊部隊員にとって、ホンの少しのミスは命取りとなる。そうならないために、部隊や隊員ごとのトライアルが認められている。かなり自由度の高いのも特殊部隊の特徴のひとつだ。

こうした厳しいトライアルを勝ち抜き、採用されたのが「DEVGRUCUSTOM」である。H&K社の製造するHK416Dをベースとし、そこに特殊部隊からの要望を取り入れカスタマイズが施されている。東京マルイでは、この特殊部隊御用達のカスタムモデルを

次世代電動ガンでモデルアップした。

基本的なフォルムはHK416Dだが、細かい部分で変更が施されている。まず大きな違いとなるのが、AAC (ADVANCED ARMAMENT CORP) の略) タイプのサイレンサー&フラッシュハイダーだろう。アルミ削り出しにより生み出された高い精度のパーツは、マニアも納得の完成度である。サイレンサーはこのハイダーでないと装着できない専用モデル。ほかのマズルアタッチメントを装着する場合は、フラッシュハイダーを外せば14mmの逆ネジとなっている。

ナイフ・タイプのフリップアップ式のバックアップ・フロントサイトとリアサイトは耐久性のある金属製。繰り返し折り畳んだりすることの多いパーツだけに耐久性に優れた金属なのは嬉しい仕様だ。使用しない際は折り畳んでおけるし、必要な際は取り外してしまえる。実に使い勝手のよいパーツだ。近頃はオプティカルサイトの搭載

KIMBER ULTRA RAPTOR II



キンバー《ウルトラ・ラプターII》

- 全長:約183mm
- 銃身長:約73mm
- 重量:約890g
- 装弾数:19+1発
- 価格:4万5150円
- 12月下旬限定発売予定

小さな猛禽、 ウルトラ・ラプターII

2013年の夏、センセーショナルに登場したウェスタン アームズ (以下: WA) のキンバー・モデル“ラプターII”。金型成型したブランク・スライドに、入念な機械加工を施して再現した独特の滑り止めは、正にカスタムガンというにふさわしいでき栄えだった。発売と同時にガバメント・ファンが殺到し、早々に完売したと聞いているが、果たしてラプターIIを求めるファンに、充分行き渡ったのか? あれだけ手の掛かるカスタムなので、製作数は非常に少なかったはず。買い逃して悔しい思いをしているファンの方が、きっと大勢いることだろう。

そんなファン達のために、ラプターIIシリーズの充実を図り、WAが年内にコンパクト・モデルの“ウルトラ・ラプターII”を市場に送り出すことになった。

オフィサーズACPを始めとするコンパクト系ガバメントは、スタン

ダード・サイズ同様の人気モデル。かつて、ガバメント系セミオートのカリバー・タイプは、コマンダー・サイズが常識だった。キックが強い.45のダウン・サイジングは、コマンダー・サイズが限界だろうという判断だったのだろう。ところが1990年代にコルトがオフィサーズACPを発売すると、瞬く間に普及。クローン・ガバメントを製作するメーカーも、ほとんどがコンパクト・モデルをリリースするというコンパクト.45ブームが巻き起こった。WAでも、すでいくつかのコンパクト.45をラインナップに加えているが、どのモデルもスタンダード・モデルと肩を並べる人気ぶりで、いつも品薄、または在庫切れの状態が続いているようだ。

人気沸騰のコンパクト.45で、しかもウルトラ・ラインのラプターII。これはもう考えているヒマなどない。すぐに完売してしまうのは目に見えている。すべてのガバメント・フリーク、特に夏のラプターIIを買い逃した人は、早めに手を打っておこう。

今回製作されたWAの“ウルトラ・ラプターII”は、従来のコンパクト系



セフティ、ハンマー、リアサイトなど、キンバーの現行モデルに合わせた外装パーツを装備。